

## 第 1 回検討部会（7 月 8 日）での主な意見

## 1 食品の安全に関する情報提供について

## (1) 情報提供

- ・ 専門家と素人との考え方に違いがあり、専門家から素人への翻訳をどのようにするのかについて検討すべき
- ・ 専門家は、例えば  $10^{-5}$  の確率というようなこと（科学的・数量的な評価）しか云えない。これを翻訳するのは自治体の役割であり、専門家と消費者の間に入って調整することが役割である
- ・ 自治体の役割は、リスク管理なので、それがきちんと伝わるのであればよいが、翻訳にバイアスがかかることが不安である。
- ・ 専門家の言葉を伝えるときに、多少なりともバイアスがかかるが、一番バイアスがかからないのは自治体である
- ・ 自治体は、専門家と消費者の双方から監視ができるので、自治体の翻訳の中身を見せる（透明性を確保する）ことが必要
- ・ インターネットによる情報提供は、有効な手段ではあるが、ネットを使わないグループへの情報提供方法も考えていかないといけない。（10 年後にはネットの使用率も相当上がると思うが、現状ではすべてを網羅することは困難）



リスクミ充実のための視点として「情報を迅速により広く、分かりやすく発信する必要性」を明示し、対応を検討する。

## (2) 緊急時の情報提供

- ・ 事故発生時等において、事後の検証や原因究明をきちんと行うことが重要である。
- ・ 情報に意義を付加して提供するとのことだが、正確な情報を提供するということは非常に難しいことではないのか？ 正確でなくとも、迅速に事実を公表することも大事なことはないか
- ・ リスクは確率なので、いったんことが起こったときは、それはすでにリスクではない。そうした場合には、危機管理マニュアル等で対応すべき問題である。



平常時のリスクミによって関係者の理解と信頼を得ることで、緊急時のコミュニケーションを円滑・効果的に行うことができる。

このため、リスクミの充実のための視点である「情報を迅速により広く、分かりやすく発信する必要性」への対応の一部として考え方を取りまとめる。

## 2 関係者との意見・情報の交流について

- ・ 自治体がやるリスコミというと説明だけで終始してしまうのではないかな？説明だけでなく、双方向の話し合いが必要である
- ・ クライシスコミュニケーションだけではなく、地道な取組によって意見交換をどのように進めていくのかを検討すべきである
- ・ 専門家と消費者の格差を踏まえて、折り合うことが必要。また、施策の決定においてリスコミが必要であると思う。
- ・ 双方向の意見交換だけでなく、その前段としての一方向の情報提供も必要であると思う。リスコミを支える様々な取組も検討の対象とするべきである
- ・ 消費者の情報の受けとめ方も重要。不要な買い控えなどを防止するうえでも、教育が大切である。
- ・ リスコミにおいて一番重要なことは、マスコミがどのように受け留めるかである。マスコミに正しく情報を伝達し、理解してもらうことが重要である
- ・ 関係者が相互に、取組を見合いながら進めて行くことが必要であり、そのためのしっかりした仕掛けが必要。



リスコミ充実のための視点として「関係者の声によりきめ細かく対応する必要性」及び「関係者による議論をより深く進める必要性」を明示し、対応を検討する

## 3 その他

- ・ 国もリスコミを進めている、Codex でも検討している。こうしたことを踏まえ、リスコミの原則みたいなものを取りまとめた方がよいのではないかな。



食品の安全に関するリスコミの必要性について記載する

- ・ あまり「あるべき姿」を考えることに終始するのではなく、様々なことにトライアルしていくことが必要である。きれいな報告をまとめるよりも、リスコミを機能させていくことが重要である



具体的な対応の中で、リスコミを機能させるための考え方について検討する